

## パーム油 一段高

国際相場、3年8ヵ月ぶり水準

### 産地で輸出堅調

揚げ油やマーガリンなどに使うパーム油の国際価格が一段高となった。指標となるマレーシア市場のパーム油先物(期近)は27日終値が1ト3237ギ(約8万1000円)と5月の安値比6割高く、3年8ヵ月ぶりの高

値となった。日本時間28日夕時点でも同水準で推移した。

パーム油は世界で最も多く使う植物油。食用のほか化粧品やバイオ燃料にも使い、インドネシアとマレーシアで世界供給量の約9割を占める。

相場上昇は、マレーシアのパーム油輸出が堅調なことが主因だ。

二大消費国であるインドと中国では、新型コロナウイルスの影響で外食向けを中心に落ち込んでいた需要が回復しつつある。中印両国とも「国内在庫がたまっていない状況」(製油会社)で、輸入を急いでいる。

マレーシアパーム油庁(MPOB)によると、

マレーシアの対中輸出量は9月が約25万トと今年最も少なかった3月に比べ約7割多い。インド向けも9月が37万トと年内2番目の多さだった。

フジトミの斎藤和彦チーフアナリストは「ラニーニャ現象の影響で産地では降雨が多く減産観測が出ているほか、競合する大豆油相場の高値もパーム油相場を押し上げている」と指摘する。

国際相場高は国内取引価格にも波及しそうだ。製油会社が加工油脂メーカーなどに販売する10月の大口取引価格は1キロ172円程度だが、「11月に上昇する可能性がある」と(製油会社)という。

# ウメト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他( )

2020年10月30日

担当者: 岩崎

BASF 顔料事業  
取得完了時期延期  
DIC

DICは29日、独BASFが保有する顔料事業の取得完了時期を延期す

ると発表した。2020年末までの完了を目指していたが、BASF側のITシステムの統合などが遅延。数カ月先の延期となる見込みで、21年第1四半期中の実行を目指す。BASF Color & Effects (BCE)の株式・資産取得の完了時期を変更する。同社と基幹システムの統合作業などを進めていたが、今年度第1四半期から新型コロナウイルスの影響で若干の遅延が生じたことによる。BCEが事業展開する欧州・米国など各国・地域の競争法当局からの承認作業はおおむねスケジュール通りという。BCEの収益は今期の通期業績には組み込ま

れず、延期による影響はない。DICは19年8月、過去最高額となる9億8500万円を投じたBCEの買収を決定。欧米を中心に11拠点を持つことによる地域補完性のほか、自動車塗料向け有機顔料や化粧品向けエフェクト

顔料に強くDICの顔料ポートフォリオとの重複が少ないことから統合シナジーに期待をかける。足元の業績は自動車・化粧品など主力市場が後退した影響を受けているとみられるが、統合を経た21年度以降の回復を見込む。

# ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他( )

2020年 10月 30日

担当者: 若崎

トーヨーカラーに  
IJインキを集中  
東洋インキグループ  
東洋インキSCホール  
ディングスは、子会社2  
社間でインクジェット  
(IJ)インキ関連事業  
を2021年1月1日付  
で再編すると発表した。  
色材・機能材関連事業を  
手がけるトーヨーカラー  
に集中させ、成長市場で  
のシナジー発揮を目指  
す。

26日に開催した取締役  
会で決定した。印刷・情  
報・パッケージ関連事業

を手がける東洋インキか  
ら、トーヨーカラーが吸  
収分割により承継する。  
他の印刷インキに比して  
より高度な整粒分散技術  
が求められるほか、IJ  
ヘッドメーカー向けの商  
流が必要となるなどの産  
業構造の違いから統合を  
決断。両社が培った顔料  
・樹脂技術などを融合さ  
せ、IJ印刷の高画質化  
や印刷安定性の向上に寄  
与する製品開発を加速さ  
せていく。

# ウメモト インフォメーション

引用：日経／化学工業／燃料油脂／新聞展望／他( )

2020年10月29日

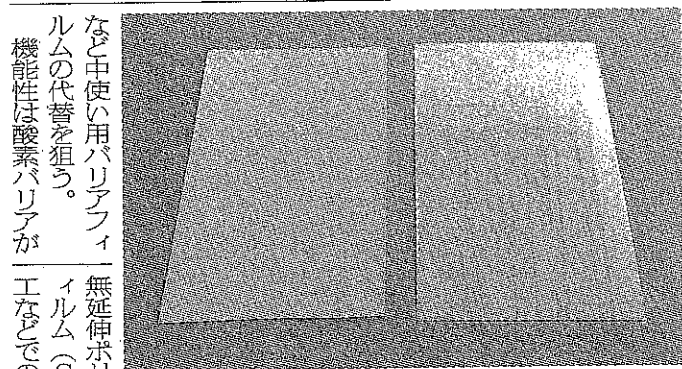
担当者：権野

## 機能性インキ・ニス 東京インキ

### 紙・モノマテ包材に的

東京インキは、機能性インキ・ニスの新用途を開拓する。新たなテーマとなるのは食品包装などのサステナブル化ニーズへの対応。モノマテリアル化や紙製パリア素材の普及に商機を見出し、複数のラインアップの改良などで新規採用の獲得を目指す。グラビアインキ事業の製品戦略の柱として、新用途向けの拡販に取り組んでいく。

どの軟包装向けに実績が豊富だったが、このほど紙基材向けのカスターマイズを経て適用範囲を拡大。紙製パリア包材への置き換え事例が増えるなか、近く菓子袋用途で採用の見込みという。



耐水耐油ニス 7347Aを塗工したサンプル(左)……主眼だが、すでに水蒸気パリア製品の開発に着手、モノマテリアル化ニーズの本格化に備える構えで、2軸延伸ポリプロピレンフィルム(OPP)／2次包装やレジ袋配布の

有料化で需要の増える紙袋向けなどを狙っている。

付与を有望とみる。国内のパリアフィルムの市場規模は年間約10億平方メートルと推定され、同社はうち2〜3割程度はモノマテリアル化の検討が可能とする。

一方、現状のトレンドの一つとなっている包材の紙化向けには、耐水耐油ニスを提案。水性の耐水耐油ニス 7347Aは改正食品衛生法によるポジティブリスト(P.L)制度に準拠し、ヒートシール適性も持ち合わせる。撈油度・撈水度とも紙パルプ技術協会が定める試験法における最高値を確認し、従来のオーバープリント(OP)ニスで実現できなかった範囲をカバー。菓子類の2次包装やレジ袋配布の

有料化で需要の増える紙袋向けなどを狙っている。



# ウメモト インフォメーション

引用：日経／化学工業／燃料油脂／新聞展望／他（ ）

2020年10月28日

担当者：小松

## エボニック ジャパン、IJインキに商機

### 分散剤の応用開発カギに

エボニック ジャパンは、スルで目詰まりを起こさないインクジェット（IJ）印刷インキ市場で事業創出に取り組む。IJインキの技術で世界をリードする日系インキメーカーの開発トレンドは、水系インキの印刷性の向上。同社は分散剤によるソリューションに商機を見出しているが、市場性や成長性の精査後

系の性能向上という最先端の開発領域、少量多品種印刷の増加による市場の成長性などは、本国の開発部門を説得する条件として十分。すでに日本市場の動向分析を本国にレポートし、事業性の精査が始まったという。日本では後発となる分散剤だが、グループのシロキサンや有機ポリマーのコア技術を応用して差別化を狙う。

にドイツ本社の開発部門によって製品開発をスタートするのがエボニックグループのロー。日本発の案件として、日系ユーザーのニーズにかなう分散剤の開発をエボニック本体に促していく考えだ。

同社は、この技術トレンドの力を握るのは分散剤だとみている。IJインキは主流のクラリアやフレキシインキに比べて市場規模は小さいものの、日本市場の先進性、水

販売面では消泡剤や各種添加剤販売で築いた既存のパイプを生かせる。また、新製品開発は主に本国の開発部門が担うが、日本では川崎研究所（川崎氏高津区）による技術サポートを提供できる体制を整えている。同社は「短期間で実現できるテーマではないが、ユーザーの課題解決に貢献していきたい」としている。